

中国における女性スポーツジャーナリストの職業状況 —インタビュー調査におけるジェンダー問題の考察—

スポーツ文化研究領域

5020A015-9 WEI WEI

研究指導教員:リー・トンプソン 教授

【序論】

近年、報道改革の深化、メディア競争の激化、社会的意識の変化に伴い、女性のスポーツ報道への参加が多くなってきている。しかし、女性ジャーナリストがスポーツメディアあるいは、「男性が支配的なメディアの世界」に入るとき、彼女たちが最初に直面しなければならないのはジェンダー差別の問題だ。

本論文の目的を、「中国における女性スポーツジャーナリストへの職業状況に関するインタビュー調査からジェンダー格差の問題を明らかにすること」とする。研究目的を明らかにするため、二つのリサーチクエスションを設定する。

1. 女性スポーツジャーナリストはどのようなことをジェンダー格差の問題と思っているのか。

2. ジェンダーに関連する職業状況はどのようなになっているか。

これらのリサーチクエスションを明らかにするために、質的なアプローチを採用し、中国における女性スポーツジャーナリストのジェンダーに関連する職業状況について考察する。

【研究背景】

第一節は、中国における 1949 年からの女性の仕事環境と家庭環境の変遷について説明する。第二節は、中国のスポーツメディアおよび女性スポーツジャーナリストの発展を紹介する。2001 年、中国の

スポーツ界では、第 29 回夏季オリンピックの開催権を獲得したことと、サッカー男子代表チームが 2002 年ワールドカップの決勝トーナメントに進出したことという 2 つの大きな出来事があった。これにより、スポーツメディアに登場する女性の数が増えた。第三節は、「李響の事件」を例に、ジェンダー差別は常に存在することを示す。以上のような背景から、本研究では、女性スポーツジャーナリストがどのような性差問題に遭遇しているかを具体的に明らかにしたい。

【先行研究の考察】

ジェンダーの視点から見た女性スポーツジャーナリストが直面するジェンダー差別に関する研究と、新聞報道における女性に対する差別的な表現についての研究を検討し、その結論としては、中国における「メディアとジェンダー」に関する研究が少なく、関連する理論も不足していることを示している。そのため、スポーツジャーナリストとジェンダーに関する研究を補足したい。

【研究方法】

本文では、中国におけるスポーツメディア企業に報道職として勤務経験がある女性 15 名に対して調査を行った。調査対象は機縁式で選ばれ、約 1 時間から 1 時間半程度の 1 対 1 の半構造化インタビューを用いた。

【研究結果】

インタビューデータを基に、スポーツジャーナリストという職業の特殊性、職場環境と家庭環境という三つの面から分析を行った。

まず、スポーツジャーナリストという職業そのものの特殊性を踏まえ、競技種目による違い、受け手からの視線、記事のスタイルなど三つの面からまとめた。ジェンダー差別と、担当する競技種目との関係を明らかにした。一般的には、注目度の高い種目、より男性の観客が多い種目、より激しい種目、男性だけで参加できる種目は、相対的に差別的な扱いを受ける可能性が高くなることが分かった。またメディアの経営の立場からすれば、観客や読者などの受け手の多数派である男性の好みを尊重することは利益を最大化する戦略である。そして、女性スポーツジャーナリストは、戦術的な分析記事を書くことができないと思われた経験があることがわかった。

また、職場環境については、社内環境と社外環境という2つの点から分析を行う。会社の中で遭遇する性差は、主に求職活動や昇進、上司との関係などに関連するものである。社外環境については、女性スポーツジャーナリストとスポーツジャーナリスト仲間との関係、取材対象との関係の二つの側面に分けることができる。少数派である女性ジャーナリストは排除されてきたことがわかった。一方、選手等の取材対象者との関係においては、

取材の目的を疑われたり、セクシャルハラスメントを受けたりするものである。

最後に、家庭領域については、スポーツジャーナリストという職業が恋愛、結婚、出産、子育てに与える影響と恋愛、結婚、出産、子育てが女性スポーツジャーナリストのキャリアに与える影響という2つの側面から分析を行った。

【考察】

最初に、女性スポーツジャーナリストが思っているジェンダー格差はどのようなことかを明らかにした。中国の雇用における女性差別の典型的な問題である、(1)採用過程での女性差別、(2)賃金などの待遇面での女性差別、(3)妊娠・出産を理由とした女性差別 (4)セクシュアル・ハラスメントに加え、スポーツ・ジャーナリスト特有の差別の問題もある。例えば周縁化、ゴシップからの疎外、ファンタジーフットボールやソフトボールチームからの疎外などである。

そして、ジェンダーに関連する職業状況も解明した。まず、女性スポーツジャーナリストはスカートを敬遠し、男性スポーツジャーナリストと同じような服を着用することで、自分の性別を隠す。また、スポーツジャーナリズム界に残りたいと思うなら、男性が決めたルールに従わなければならない。最後に、インタビューの中には、ジェンダー差別を感じていないが、実際に差別的な扱いを受けた人もいる。